

ドバイ日本人学校での実践報告

前ドバイ日本人学校 教諭

さいたま市立川通小学校 教諭 染谷 尚久

キーワード 三大行事 現地校交流 生活科

1 はじめに

ドバイはアラビア半島の最大の商業都市である。石油資源に乏しく、早くからリゾート開発や、外資系資本の誘致に力を注いでいた。数年前のドバイショックで景気は一時低迷したが、現在はかつての好景気を取り戻しつつある。あちらこちらでビル建設を行っており、建設ラッシュという雰囲気である。そのため、外国人労働者の数が急増し、不動産バブル再来の様相である。気候は緯度の割に気温が一年を通して高く、夏は50℃を越える。さらに湿度も高く、10分以上外にいと身の危険を感じるほどである。その反面、冬は日本の5月頃のような気候で暑くも寒くもなく大変過ごしやすい。この時期にヨーロッパからの避寒地としてたくさんの観光客が訪れる。目覚ましい繁栄ぶりと、戒律の厳しいイスラム教国の中ではめずらしく開放的な雰囲気をもち合わせているため、「中東の香港」などと呼ばれたりもする。

2 活動報告

(1) 教育課程

ドバイ日本人学校は、アラブ首長国連邦(UAE)を構成する7首長国(アブダビ、ドバイ、シャルジャ、アジュマーン、ウンム・ル・カイワイン、ラアス・ル・ハイマ、フジャイラ)のひとつドバイ首長国の中心地近くにある。昭和55年にハムリアに開校し、昭和62年にアルワスル地区に移転し、ドバイ教育局に認可されて「日本国総領事館付属の私立学校」として現在に至る。本校は平成25年度に開校33周年を迎えた。

現在125名(平成26年2月27日現在)在籍している。ほとんどの児童が日本企業の駐在員の子女である。そのため児童の入れ替わりは多く、5年以上在籍する生徒は少ない。1年~3年程度で帰国または他校に転校する子どもが多い。指導形態は小学部から教科担任制を一部導入している。また、派遣教員は2~3年で入れ替わる。学校教育目標に「自主性、自立性、国際性」を掲げ教育活動を行っている。教育課程は、日本の学習指導要領に基づき編成されている。日本と同様の授業を行い、さらに英会話を週に2時間、アラビア語を週1時間行っている。

(2) 三大行事

「一生懸命がかっこいい」をキャッチフレーズに学期に一回ずつ計3回全校児童生徒参加の行事を行っている。

① つながり合う音楽発表会

つながり合いを大切にして、毎年6月に低学年、中学年、高学年、中学部の4部構成で総領事、保護者の参観のもと体育館で発表会を行っている。それぞれの発達段階に合わせて指導を行い、この行事を通して音楽的情操を養い、学級学年づくりを行っている。どの子ども発表会に向けてめあてをもって参加し、一生懸命に音楽的活動に取り組む姿がすばらしかった。



【低学年部】



【中学部】

② かかわり合う熱沙祭

「かかわり合い」を大切にして毎年10月に熱沙祭を音楽発表会と同様に4部に分かれて演劇発表を行う。音楽発表会で培った「つながり合い」を進化・統合し、それぞれの発達段階に応じた題材を夏休み前に選び、台本を作成し、配役や小道具・大道具を決定する。

背景画は2年前までは手描きで描いていたが、業務の効率化、背景の変化の簡易性等を勘案し、透過式大型スクリーンを使用するようにした。大型プロジェクターでスクリーンの後ろから映し出し、場面ごとに背景を変化させることによって臨場感を高めることに成功した。

練習は3週間前から熱沙特別時間割を組み、毎日1時間練習するようにしている。2週間に短縮する案もでたが、質をある程度保証するためには3週間必要という結論に至り、現在も3週間の練習期間をとっている。

毎年かかわり合いを大切にした感動的な劇を披露している。



【中学年部】



【高学年部】

③ みがき合う運動会

1年間の集大成として「みがき合い」を大切にして毎年1月に日本人会との共催で運動会を行っている。小学1年生から中学3年生までの縦割りチームを4チーム編成し、4チーム対抗の演技・球技を繰り広げる。中学2年生を中心にリーダーズを編成し、ダンスの作成やチームの役割を分担し、担当教員の助言指導のもと自分たちでチーム運営を行う。どのチームも一生懸命にダンスの練習や競技の練習をし、当日本気の戦いを繰り広げる。笑いあり、涙ありの子たちにとって思い出深い運動会になっている。



【ダンス】



【低学年部団体競技】



【高学年・中学部団体競技】

(3) 現地校との交流

現地理解教育を推進するために現地校との交流を年 4 回行っている。学年ごとに訪問校を決定し、合計 7 校との交流をしている。現地事情で連絡調整が難しく、交流先確保がなかなか難しい現状があるが、毎年 7 校と交流会を行っている。

現地校に訪問し、一緒に授業を受けたり、文化祭に参加したり、よさこい踊りを披露したりした。また、現地校を招待し、一緒に運動をしたり、切り絵や書道などの日本文化を紹介し実際に体験してもらったり、と有意義な体験活動をしている。週 1 時間学習しているアラビア語を実際に使うよい機会にもなっている。

交流会を通して、意思を伝えるためには、言語だけでなく伝えようとする気持ちや非言語コミュニケーションの大切さも実感させることができた。



【低学年の塗り絵】



【中学年の凧作り】



【高学年のすごろく】

(4) 生活科

生活科の授業で次のような植物を育てた。オクラ、落花生、とうがらし、アサガオ、ひまわり、さつまいもの種を植えて生長を観察した。次のような生長をした。

①オクラ

5月に種子を植えてすぐに発芽した。その後、7月まで順調に成長したが50cm程の背丈で生長が停止した。通常なら花が咲き、実ができるのだが、花が咲かずに徐々に葉が落ちそのまま枯れた。再度8月に種子を植えたところ順調に成長し、花が咲き、実ができた。このことから生長に対する適切な気温幅は広いが、開花に対する適切な温度幅は狭いことがわかった。3ヶ月程度で開花に適切な温度に至らないと開花せずに枯れることがわかった。収穫したオクラは現地スタッフ（スリランカ人）をゲストティーチャーによんでオクラのスリランカ料理を作り、試食した。どの子もおいしいと自分たちで育てたオクラを喜んで食べた。また、異文化料理を堪能することができた。

②落花生

オクラ同様、5月に植えた。順調に生長し、7月に花が咲き、10月ころ収穫することができた。

③とうがらし

オクラ、落花生同様5月に趣旨を植えた。発芽までは順調だったか、その後1ヶ月ほどで全滅した。高温に耐えられなかったことが予想される。

④アサガオ

5月に種子を植えて順調に生長したが、花を咲かせなかった。枯れるものもあったが酷暑を生き延びたものが涼しくなってきた11月頃花を咲かせた。

⑤ひまわり

9月に種子を植えた。順調に成長したが、日本で育てたときのように背丈が伸びず、1mほどで花を咲かせた。

⑥さつまいも

11月に種芋（エジプト産、USA産）を鉢に植えた。2週間ほどで芽が出たので、それを切り取り、観察園に植え直した。また、UAE産の苗も植えた。どの苗も順調に育ち、3月に収穫することができた。細くごぼうのようなさつまいもが多かったがなんとか収穫できてほっとした。



【大きく育ったオクラ】



【落花生の収穫】



【さつまいもの収穫】

3 さいごに

ドバイでの生活は大きな財産になった。日本人会による学校運営、灼熱の夏、どこまでも続く砂漠、外気50℃の中でのスキー場やスケート場、シェイクをトップに常に世界一を目指した国家運営、人口の8割が外国人という特殊な人口構成、運転マナーの悪さ、日本人会での経験等、日本の生活では経験できなかった貴重な経験をさせていただいた。この貴重な経験を子どもたちに還元し、ゆめをもち未来を切り拓く子どもたちのために職務に専念していく次第である。